

ii 魚類

(7) 魚類相

既存資料調査の結果、表 10.7-13 に示す 1 目 1 科 1 種の魚類、ホトケドジョウが確認されました。

本種は湿地の水路、水域、旧水田などで確認されており、成魚は水路や水域で、稚魚は湿地の雨水等の流入孔付近や旧水田、水路途中の湧出点など、日当たりの良い場所で多く確認されています。

表 10.7-13 確認された魚類の一覧

No.	目名	科名	種名(和名)
1	コイ	ドジョウ	ホトケドジョウ
合 計 : 1 目 1 科 1 種			

注) 種の配列等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」(平成 28 年 9 月 国土交通省)に準拠しました。

(イ) 注目される魚類及び注目される理由

既存資料調査結果より、表 10.7-12 に示す選定基準に基づいて注目される魚類の選定を行いました。

その結果、注目される魚類として表 10.7-14 に示すホトケドジョウの 1 目 1 科 1 種が選定されました。

この種の生息状況等は表 10.7-15 に示すとおりです。

なお、本種の確認位置は、注目される種の保護のため、図示していません。

表 10.7-14 注目される魚類の選定結果

No.	目名	科名	種名(和名)	選定基準 <sup>注)</sup>			
				1	2	3	4
1	コイ	ドジョウ	ホトケドジョウ			EN	VU
合 計 : 1 目 1 科 1 種				0 種	0 種	1 種	1 種

注) 選定基準は表 10.7-12 参照

表 10.7-15 注目される魚類の生息状況

種名(和名)	生息状況	分布・生態等	写真 <sup>注)</sup>
ホトケドジョウ	成魚は湿地の水路や水域で広く確認されています。稚魚は湿地の雨水等の流入孔付近や旧水田、水路途中の湧出点など、日当たりの良い場所で多く確認されています。	全長 6cm 程度。湧水を起源とする清冽な水環境を選好し、主な生息地は緩やかな流れの細流の砂泥底です。主に底生小動物を採食します。	

資料: 「平成 25 年度多摩連光寺自然環境調査委託報告書」(平成 26 年 3 月 東京都環境局)

iii 底生動物

(ア)底生動物相

既存資料調査の結果、表 10.7-16 に示す 6 綱 14 目 23 科 36 種の底生動物が確認されました。

確認種の多くは里山的環境で普通に見られる種です。

表 10.7-16 確認された底生動物の一覧

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)		
1	渦虫	三岐腸	サンカクアタマウズムシ	ナミウズムシ		
2	腹足	盤足	カワニナ	カワニナ		
3		基眼	カワコザラガイ	カワコザラガイ		
4			モノアラガイ	ハブタエモノアラガイ		
5		二枚貝	マルスダレガイ	マメシジミ	マメシジミ属	
6	ミミズ	イトミミズ	ミズミミズ	エラミミズ		
7				ミズミミズ属		
8				イトミミズ亜科		
9	軟甲	ワラジムシ	ミズムシ	ミズムシ		
10		エビ	サワガニ	サワガニ		
11	昆虫	トンボ	サナエトンボ	ヤマサナエ		
12			オニヤンマ	オニヤンマ		
13			トンボ	シオカラトンボ	シオカラトンボ	
14				オオシオカラトンボ	オオシオカラトンボ	
15		カワゲラ	オナシカワゲラ	オナシカワゲラ属		
16		カメムシ	アメンボ	ヒメアメンボ	ヒメアメンボ	
17				ヤスマツアメンボ	ヤスマツアメンボ	
18				シマアメンボ	シマアメンボ	
19				カタビロアメンボ	ケシカタビロアメンボ亜科	
20				ヘビトンボ	ヘビトンボ	ヤマトクロスジヘビトンボ
21		トビケラ	カクツツトビケラ	カクツツトビケラ属		
22		ハエ	ガガンボ	カスリヒメガガンボ属	カスリヒメガガンボ属	
-				ヒメガガンボ亜科 <sup>※</sup>	ヒメガガンボ亜科 <sup>※</sup>	
23			ヌカカ	ヌカカ科	ヌカカ科	
24			ユスリカ	ユスリカ	ユスリカ属	ユスリカ属
25					カマガタユスリカ属	カマガタユスリカ属
26					ボカシヌマユスリカ属	ボカシヌマユスリカ属
27					ナガスネユスリカ属	ナガスネユスリカ属
28					ニセケバネエリユスリカ属	ニセケバネエリユスリカ属
29	Paratrissocladius sp.				Paratrissocladius sp.	
30	ハモンユスリカ属				ハモンユスリカ属	
31	ナガレユスリカ属				ナガレユスリカ属	
32	ピロウドエリユスリカ属				ピロウドエリユスリカ属	
-	ユスリカ亜科 <sup>※</sup>				ユスリカ亜科 <sup>※</sup>	
-	エリユスリカ亜科 <sup>※</sup>				エリユスリカ亜科 <sup>※</sup>	
-	モンユスリカ亜科 <sup>※</sup>		モンユスリカ亜科 <sup>※</sup>			
33	ホソカ		ホソカ属	ホソカ属		
34	ブユ		ツノマユブユ属	ツノマユブユ属		
35	ナガラアブ	サツマモンナガラアブ	サツマモンナガラアブ			
36	コウチュウ	ガムシ	セマルガムシ			
合 計 : 6 綱 14 目 23 科 36 種						

注) 種の配列等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」(平成 28 年 9 月 国土交通省)に準拠しました。

※) 同一の種が同じ科の中に含まれている可能性があるため、合計種数に計測していないことを示します。

(イ) 注目される底生動物及び注目される理由

既存資料調査結果より、表 10.7-12 に示す選定基準に基づいて注目される底生動物の選定を行いました。

その結果、注目される底生動物として、表 10.7-17 に示す 3 綱 3 目 3 科 3 種が選定されました。これらの種の生息状況等は表 10.7-18 に示すとおりです。

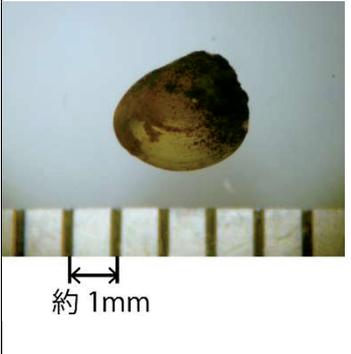
なお、これらの種の確認位置は、注目される種の保護のため、図示していません。

表 10.7-17 注目される底生動物の選定結果

No.	綱名	目名	科名	種名(和名)	選定基準 <sup>注)</sup>				
					1	2	3	4	
								南多摩	本土部
1	二枚貝	マルスダレガイ	マメシジミ	マメシジミ属				DD	DD
2	軟甲	エビ	サワガニ	サワガニ				留	留
3	昆虫	トンボ	サナエトンボ	ヤマサナエ				VU	EN
合 計 : 3 綱 3 目 3 科 3 種					0 種	0 種	0 種	3 種	3 種
								3 種	

注) 選定基準は表 10.7-12 参照

表 10.7-18 注目される底生動物の生息状況

種名(和名)	生育状況等	分布・生態等	写真 <sup>注)</sup>
マメシジミ属	湿地の北側(宅地側)の水路内で確認されています。	殻長 1 mm~5 mm 程度。全国的に分布します。低地から高山地の湧水のある湖沼や湿地、山手の水路などに生息します。分類は未確定などところが多く混迷しています。	
サワガニ	湿地の水路内と水路沿いの場所で確認されています。	甲幅 20~30mm。本州から九州に分布します。主に溪流などの清冽な水域に生息します。水域で水生生物や藻類、陸上で昆虫類やミミズなどを主に採食します。大型の卵を少数産み、海には流下しない陸封型です。	
ヤマサナエ	湿地の西部の水路内で確認されています。	本州から九州に分布します。丘陵地から山地の樹林に囲まれた河川上・中流域、用水路などに生息します。	

資料：「平成 25 年度多摩連光寺自然環境調査委託報告書」(平成 26 年 3 月 東京都環境局)

iv 貝類（陸産貝類・淡水産貝類）

(7) 貝類相

調査地域では、表 10.7-19 に示す 3 目 9 科 16 種の貝類が確認されました。

キバサナギガイ、ナタネキバサナギガイなどの陸産貝類、カワニナ、コシダカヒメモノアラガイ、ミズコハクガイなどの淡水産貝類が確認されています。

表 10.7-19 確認された貝類の一覧

No.	目名	科名	種名(和名)	
1	磐足	カワニナ	カワニナ	
2	基眼	ケシガイ	ニホンケシガイ	
3		モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ	
4			ハブタエモノアラガイ	
5		ヒラマキガイ	ミズコハクガイ	
6	柄眼	キバサナギガイ	ナタネキバサナギガイ	
7			キバサナギガイ	
-			キバサナギガイ属※	
8		パツラマイマイ	パツラマイマイ	
9		ナメクジ	ナメクジ	
10			ナメクジ属	
11		ノコウラナメクジ	ノハラナメクジ	
12		ベッコウマイマイ		ヒメベッコウガイ
13				ハリマキビ
14				マルシタラガイ
15			カサキビ	
16			ウラジロベッコウ	
合 計 : 3 目 9 科 16 種				

注) 種の配列等は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」(平成 28 年 9 月 国土交通省)に準拠しました。

※) 同一の種が同じ科の中に含まれている可能性があるため、合計種数に計測していないことを示します。

(4) 注目される貝類及び注目される理由

既存資料調査結果より、表 10.7-12 に示す選定基準に基づいて注目される貝類の選定を行いました。

その結果、注目される貝類として、表 10.7-20 に示す 2 目 3 科 4 種が選定されました。これらの種の生息状況等は表 10.7-21 に示すとおりです。

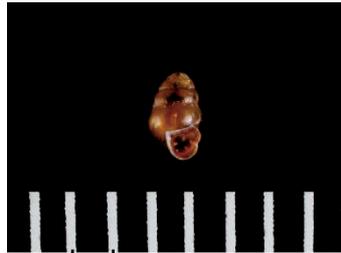
なお、これらの種の確認位置は、注目される種の保護のため、図示していません。

表 10.7-20 注目される貝類の選定結果

No.	目名	科名	種名(和名)	選定基準 <sup>注)</sup>			
				1	2	3	4
1	基眼	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ			DD	
2		ヒラマキガイ	ミズコハクガイ			VU	CR+EN
3	柄眼	キバサナギガイ	ナタネキバサナギガイ			VU	VU
4			キバサナギガイ			CR+EN	CR+EN
合 計 : 2 目 3 科 4 種				0 種	0 種	4 種	3 種
							3 種

注) 選定基準は表 10.7-12 参照

表 10.7-21 注目される貝類の生息状況

種名(和名)	生息状況	分布・生態等	写真 <sup>注)</sup>
コシダカヒメモノアラガイ	湿地のヨシ群落の縁の1箇所が生貝が確認されています。	殻径2.5mm、殻高5mm前後の巻貝で、淡水産貝類。日本各地に分布。主に水田の畦や湿地などの水際に生息します。泥のくぼみや草本類の株元、湿ったコンクリート壁などに付着します。ヨーロッパ原産の外来種と考えられるが、在来も否定できない種です。	
ミズコハクガイ	湿地の8箇所を確認されています。確認地点は枯葉などが折り重なった湿地状の環境が主で、半分水に浸かって水分を十分に含んだ枯葉の上に着生する個体などが確認されています。	殻径4.0mm、殻高1.5mmほどの小型で円盤型の貝で、淡水産貝類。本州、四国、九州と分布は広いが、記録地点は少なく、個々の生息地は互いに飛び離れています。湧水などのある池、山際の水田、休耕田など比較的良好な水域に生息します。他の淡水産貝類よりもかなり浅い水域に生息し、水に浮いた葉の裏側や植物遺骸が折り重なった湿地内の濡れた落葉の上などで見られます。日本の固有種です。	
ナタネキバサナギガイ	湿地の西部の4箇所を確認されており、うち3箇所が生貝が確認されています。確認地点はガマやヨシが高密度で生育する湿地が主で、ガマやヨシの根元や湿地表面の枯葉の上などに着生する個体などが確認されています。	殻高2.5mm程度、殻口に歯状突起が複数ある卵形の褐色の微小な貝で、陸産貝類。北海道から九州と分布は広いが、生息環境が湖沼、池、川岸、休耕田などに付随した良好な湿地にほぼ限られます。陸産貝類であるため基本的には水中に入ることとはなく、ガマ・アシなどの湿地性植物の表面や湿地上に折り重なった植物遺骸の上などで見られます。	
キバサナギガイ	湿地の中央部西の3箇所が生貝が確認されています。確認地点はガマやヨシが高密度で生育する湿地が主で、ガマやヨシの根元付近に着生する個体などが確認されています。	殻高約1.5mm、殻口部は二重にならず、殻口内に多くの歯を持ち、殻口縁は多少肥厚し、外唇中央部が殻口側に僅かに窪み・反転して弱く肥厚し、殻の縫合はやや深くくびれるがほぼ平滑の卵形の褐色の貝で、雌雄同体の陸産貝類です。北海道、本州、四国、九州、琉球列島と分布は広いです。海岸林や砂浜の海浜性植物群落の落葉の下、池沼・水田の水辺のヨシの茎・葉や泥土の上などで見られます。	

注)資料「平成25年度多摩連光寺自然環境調査委託報告書」(平成26年3月 東京都環境局)